

	目指す姿	目標	進捗
 <p>エネルギー</p>	<p>2050年までにJTグループにおいて使用するエネルギーを全て、GHGを排出しないエネルギーへ移行する。</p>	<p>JTグループにおいて使用する電力の内、再生可能エネルギー由来の電力使用量を2030年までに50%、2050年までに100%にする。</p>	 <p>再生可能エネルギー由来の電力使用量</p> <p>2022: 24% 2030: 50% 2050: 100%</p>
 <p>温室効果ガス</p>	<p>2030年までにJTグループの事業においてカーボンニュートラルを実現し、2050年までにバリューチェーン全体でGHG排出量をネットゼロにする。</p>	<p>Scope1および2のGHG排出量について、1.5℃削減経路に沿って、2030年までに2019年比47%削減する。</p> <p>Scope3の購入する原材料・サービスに由来するGHG排出量を2030年までに2019年比28%削減する。</p>	 <p>Scope1および2のGHG排出量</p> <p>2022: 16% 2030: 47%</p> <p>Scope3の購入する原材料・サービスに由来するGHG排出量</p> <p>2022: 11% 2030: 28%</p>
 <p>水資源</p>	<p>事業における水使用量の削減、およびサプライチェーンにおいて水リスク管理を推進することで、国際的な水資源管理を支援する。</p>	<p>サプライチェーンにおける水リスクおよび水利用につき適切に把握し、水資源の保全に向けた取り組みを着実に実行する。</p> <p>2030年までに、たばこ事業における水使用量を2015年比15%削減する。</p>	<p>具体的な取り組みの詳細は、JTウェブサイトをご覧ください。</p>  <p>たばこ事業における水使用量</p> <p>2030: 15% 2022: 23%</p>
 <p>森林資源</p>	<p>サプライチェーンにおける木材資源の持続的供給を確保し、森林保護・保全に更に貢献する。</p>	<p>持続可能な森林管理を強化するため、木材資源利用の改善、森林保護・保全に向けたアクションプランを着実に実行する。</p> <p>2030年までに、直接契約葉たばこ農家が葉たばこ乾燥工程で使用する自然林由来の木材を全て、再生可能な燃料源に転換する。</p>	<p>タンザニア、ザンビア、ブラジルでの植林活動により、2029年までに再生可能な燃料源への転換は98%に達すると見込まれています。</p> <p>その他の具体的な取り組みの詳細は、JTウェブサイトをご覧ください。</p>  <p>再生可能な燃料源</p> <p>2029: 98%</p>
 <p>廃棄物</p>	<p>事業や製品に由来する廃棄物による環境負荷を更に低減する。</p>	<p>製品および容器包装について以下を取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 環境に配慮した製品・容器包装の設計 • 使用済み製品の責任ある回収と処理の促進 • お客様への啓発活動 <p>事業におけるプラスチックを含む容器包装材の使用量を削減するとともに、2025年までに88%、2030年までに100%を再使用または再生利用可能な容器包装材にすることを旨とする。また、2025年までにたばこ事業における容器包装材総重量のうち、20%相当のリサイクル材の使用を目指す。</p> <p>2030年までに、たばこ事業における廃棄物発生量を2015年比20%削減する。</p>	<p>具体的な取り組みの詳細は、JTウェブサイトをご覧ください。</p>  <p>再使用または再生利用可能な容器包装材</p> <p>2022: 85% 2025: 88% 2030: 100%</p> <p>たばこ事業における容器包装材総重量におけるリサイクル材</p> <p>2022: 18% 2025: 20%</p> <p>たばこ事業における廃棄物発生量</p> <p>2030: 20% 2022: 22%</p>